

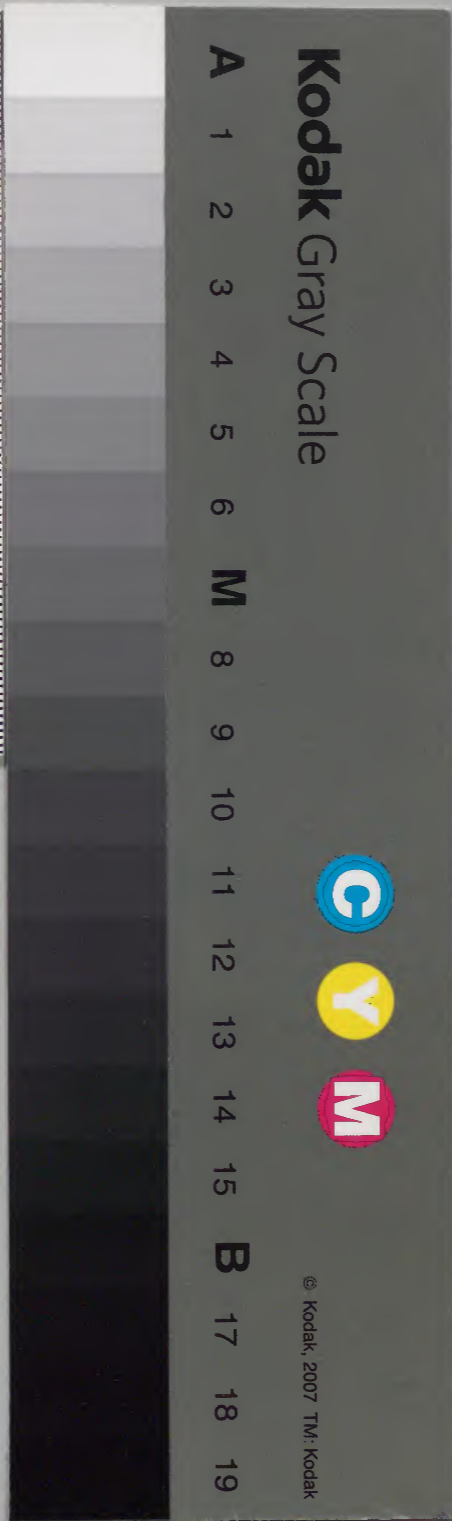
文
露
叢

九

和書門			
類	號	函	架
三三三四	六二	八	一
冊	架	函	冊

內閣文庫			
和書類	號	冊	函
三三三四	二一	二	一
冊	架	冊	函

內閣文庫	
番號	和 23234
冊數	10(8)
函號	150 166



文書第九

正徳二年壬辰

一月五日乙未年三月五日壬午攝儀式如例

二月廿日甲申年三月廿三日壬午攝儀式如例

前部御使 攝儀式如例

御使于七月廿三日 攝儀式如例

御使于八月廿三日 攝儀式如例

六月廿日御使如例

正月廿日御使如例

正月廿日御使如例

正月廿日御使如例

正月廿日御使如例

正月廿日御使如例

淺草之庫

文露叢卷九

正德二年壬辰

淺草文庫

一正月元日二日六半三日五半揃儀式如例

一二日伊勢御名代 京極大膳大夫代 前田伊豆守

京都御使 織田能登守 代 品川豊前守

日光十七日 大沢遠江守 代 横瀬駿河守

同廿日 松平周防守 代 土井甲斐守

一六日寺社御礼如例

近衛太閤御方へ御樽肴被遣 上使畠山下總守

松姫君御庇瘡酒湯御掛二付 上使秋元但馬守

以元御祝弔被遣加賀守若杖守へ天 御者一種宛被

遣

一十日四ツ時上野三御佛殿へ行列ニテ 御参詣

一十一日例年ノ通御具足餅御祝

御役替

御持弓及

中坊長兵衛跡 御先手ヨリ

浅野左兵衛

御先手二

百石加増

浅野組及ヨリ

羽太清左衛門

山田奉行

佐野豊前守跡 御目付ヨリ

大置忠右衛門

改能登守

御目付御使番ヨリ

三嶋清左衛門

道奉行ヨリ

小宮山庄九郎

相間組及

羽太清左衛門跡 相間御番ヨリ

金太六左衛門

御連歌

玉杵やあそふきふ去のき

昌億

長栄き山と成し

御

民の心月うしりあも耕し

昌純

夏不向うとあきの末

紹北

苔のむき岩のきり子きやりに

其阿

長きそ夏のきやあし

信田

ぬぬあはあくも丁の月小初天

昌長

をれり衣とうちあはき

清親

里のの秋もきりあき

通章

片曇り多てあき

昌築

そり梅りとも斗虹のを山

仍民

夕の光うら川

托筆

一十五日来ル未年権現様百回御忌ニ付日光御参

詣可被遊旨今日出仕ノ面々へ於席ニ被仰渡

一十七日紅葉山ノ御社参

一廿一日願ノ通聲養子被仰付

堀長門守

独峰次男 同忌書

日光御社参御用被仰付
 井上河内守
 日光御社参御用并日記改御用
 久世大和守
 同御普請御用并道中筋見分御用
 水野对馬守
 日記改御用
 寺社
 赤川出羽守大目付
 仙石丹波守
 御目付鈴木飛彈守
 堀田源右衛門
 一万石以下
 村知行改
 上方御助
 志村忠兵衛
 勘定御
 石原半右衛門
 関兵左衛門
 勘定御
 稻葉与一右衛門
 同
 神谷二郎兵衛
 勘定御
 八木清五郎
 同
 長坂孫七郎
 同
 一廿三日
 日光道中見分御暇
 金五牧時服三羽織
 御普請
 水野对馬守
 奉行
 曲刈信濃守
 奉行
 大久保甚右衛門
 同
 金五牧時服二羽織
 御目付
 一廿四日
 増上寺御佛殿
 御参詣

一廿六日
 相間番
 中条丹波守格
 崎冷
 藤水筑後守
 願通算養子
 松平对馬守
 三宅備前
 三宅兵庫
 内記
 松平
 日光御服
 金三牧
 片山三七郎
 日光御用
 奥御
 飯高孫太夫
 服部源八郎
 表御
 捲川八右衛門
 上原文太夫
 日記肝煎
 日鈴木彦八郎
 山中弥兵衛
 日記方
 日吉松忠三郎
 神原三郎左衛門
 三浦彦四郎
 大橋藤藏
 園本弥十郎
 奥御右筆表
 淺井兵四郎
 三宅平次郎
 玉置次右衛門
 一廿八日
 初御礼時服
 五銀馬代
 大和守
 久世源五郎
 謎目御礼
 金五牧時服
 三山城守子
 本多兵庫
 一二月一日
 日光御社参御用
 大目付
 横田備中守

一 御勤定 萩原近江守 御目平邑市右衛門

一 奉行 河野勘右衛門

一 七日 道奉行 安次右衛門 小笠原久右衛門

一 八日 當五月 嚴有院殿 三十三回御忌御法事御用

阿部豊後守 寛文五年 御成之節諸向之勤方其向

先年日光山 書出り候可被取納以上

二月

井上河内守 殿久世大和守 殿 津波新成

之字進之小前代 勅之有去木五くたろてハ令致

不仕おく是去るも 不苦少る 拙者有る内江向奉

次費う之而納候事 此より 其方後う之申

以上

二月

河野勤定 在御門

平邑市右衛門

一 十一日 今度参向ノ公家 兵御馳走 横田佐中守

勅使 庭前大納言 高野前大納言 黒田隠岐守

仙洞使 藤谷前中納言 堀大和守

四満院宮 津怪土佐守

一 乘院宮 松平宗女正

一 代 浅野土佐守 池田内匠

一 德川長福殿 宮参三付 上使鳥居伊賀守ヲ以被遣

一 一折 紀伊中納言 殿ハ二種二荷 長福殿

一 十二日 五月 嚴有院殿 御法事御用 長福殿

一 寺社奉行 松平对馬守 日 長福殿

大目付仙石丹波守

御勘定 中山出雲守

五月御法夏御用

御右筆 飯高七兵衛

本目 木工右衛門

新村伴之丞

一十四日 夜子刻 青山ヨリ

出火 五六町焼 寅刻 鎮

一十五日 初午御礼

時服 三銀馬代 相摸守 土屋外記

一十六日 願通 隱居 遠山和泉守

家督 曰伊予守

連歌師 如例 御祝 爰賜之

里村昌億 曰昌純

曰詔北 曰仍民

曰昌築 浅草日輪寺

龜井 产大鳥居 信田

録倉 小別當 神明 西東刑尸

烏森 山田宮内

祝筆 比良喜和泉

五月御法夏御用

小譜 河村弥兵衛 本間清九郎

御賄及 伊藤新兵衛

御勘定 荻原源左衛門

御代官 清野与右衛門 曰平 置次郎 右衛門

添奉行 石井次大夫

曰小野田吉兵衛

一廿一日 御目見 賜御一字号 宣澄 松平庄五郎

任侍 從出羽守 元服御礼

真御太刀

備前貞光代 金二十枚 綿二百把

右御礼 相涉

御盃 頂戴 御腰物 金珠 國光代 拜領

初午御礼

時服 六金馬代 掃部 井伊又五郎

時服 三銀馬代 对馬守 養子

松平内記

長門守 養子

堀田圖書

一廿三日 越中守 跡式 加友左膳 賜之 為御普代 並席

一廿五日 己刻 祢津御社 参午 下刻 還御

一廿六日 野州壬生 祈替 一万石 加増 烏居伊賀守

江州水口 祈替

加友左膳

烏居伊賀守

役茂骨折候ニ付於御座間御目見羅紗二間時服三
宛

一 岡田將監 舟越五郎右衛門 戸川玄蕃

一 三枝右近 板倉修理 青木右衛門

一 仙石兵庫 大久保集人 近友宮内

一 溝口式戸 与力八銀五牧 同心一 金一 兩宛

一 廿八日 四時上野淨光院殿長昌院殿兩御佛殿一御

參詣九ツ半時還御

松平播戸守内室益姬君昨夜死云水戸中納言殿一

上使山条对馬守

一 廿九日 於奧御能日光在后於西湖間御餐志

一 晦日 跡目大勢被仰付
遺物御刀 金池代三所物 色繪大根代金三 加茂越中守

御臺所一伊勢物語

一条関白

同人

隱居ニ付御刀大和志津代金十枚和泉守夏遠山友山

寄合加茂肥前寺屋布被召上替地根津辺ニテ賜

此月風病人多

一 三月二日 願通養子被仰付

松平伯耆守養子 信濃守 佐野主膳 初三左衛門

松平志广守養子 河内守才 新庄頼母 養子

九鬼豊前守養子 主計及男 建部兵之外

一 六日 御幕奉行 加茂普請下太夫跡 安藤勘兵衛

一 八日 川舩奉行 日御免跡御勤定日 朝倉勘九郎

文珠椿 牧野駿河守 仁王門前 板倉近江守

中堂表口 本多遠江守 同裏口 西尾隱岐守

屏風坂 松平下野守 車坂 酒井石見守
清水口 内藤主殿及 新清水口 坂田備後守

一十一日公家無御對顔

一十二日御馳走御能 上使等如例

一十三日禁裏御祈方 御返答并公家無御暇

銀二百枚綿百把 庭田前大納言

高野前大納言

銀百枚綿百把 藤谷前中納言

同百枚時服十 正親町三条大納言

同五十枚時服六 梅溪三位 西大路三位

耳露寺及兵

同三十枚時服六 山科中將 東坊城女納言

唐橋侍從 勸修寺兵 荻原民戸太浦

右ノ外地下并領物如例

言參府御礼銀五百枚時服三十 尾張中納言殿

日御家来時服三銀馬代織田周防守 阿部繼殿

津田兵戸

銀馬代 奥田主馬 富永九門 熊谷與兵衛

千村數馬 荻原甚太夫 中根新六

小笠原半平

一十四日五月御法夏中上野火之番 近友九門

横山數馬 松平与右衛門 固部兵庫

一十五日御舟手 小濱左衛門跡 三淵縫殿介

一十六日禁裏、勅答ノ後御返答卜唱候様ニ卜被

仰出

一十六日駿府御代官 御勘定 鈴木小右衛門

一 敏治御殿 上使井上河内守

銀三百枚綿二百把宛 田滿院御門跡

一 兼院御門跡

銀廿枚時服五田滿院佛地院權僧正

時服五一條院從僧成身院法印權大僧都

銀十枚田滿院西坊法印 小守大藏

川村内亮介 里村將監 田染内匠

四宮主水

時服四齋御辻村宗仙

銀十枚兼院内侍原刑尸口 高天大庭口

二条寺主法眼 内侍原民尸口 中詔去美允

中川主計 喜多坊駿河

時服四 吉園法橋宗仙

一十八日 田滿院 兼院 兩門跡 濱御殿 御越二付

上使水野盛物ヲ以御檜重一組宛被進

一廿一日 御三家 安松平大學 以於奧御能拜見於西湖

間御餐忘綿子十卷宛被進大學以八八大嶋十及拜

領之御三家ヨリ 檜重御者献上

一廿二日 因元御殿 上使大久保加賀守 紀伊中納言殿

一廿三日 紀伊殿 於西湖間御餐忘於御座間御礼御馬

三足賜之

時服十銀百枚 於御前御馬被下 安菰帶力

時服六羽織 水野志广守 加納平次右衛門

日三羽織 秋田一高左衛門 豊嶋半之丞

官地幸右衛門

尾張殿土產 以使者御冠棚御香臺籬御香炉献上

一廿五日願通新田一万石分地松平大和守

勇内主馬

一廿六日大坂加番被仰付 土井甲斐守

永井播磨守

五月参向公家衆御馳走

户沢上野介

仙洞使 木下肥後守 女院使 毛利讃岐守

妙法院殿 加茂遠江守 青蓮院殿 京極若狭守

代九鬼丹後守 池田内匠及 森和泉守

御書院番一御番入

大鳴肥前守組 小長谷喜八郎

井戸数馬

松平主計及 阿部四郎五郎 大久保忠右衛門

大久保保淡 松前頼母

高木傳七郎

大御番小十又小普請ヨリ廿四人御納戸一番入

駿府石垣御普請御目付 御使番 細井左次右衛門

一晦日依病氣御役御免寄合被仰付

大目付折井淡路守 物以溝口源兵衛

定

一御用ノ中御來ノ面ノ御來下人馬ノ介添

人馬多ク 其立ル由お受ノル 不ノ中進ル所ニ

用ノ添人ヲ出テセシメ 雲ノ形停止ル 御來下

負致ノルノ入人ヲノハシ定メ 御使番及

急度お拜ルセシメ

一御用ノ中御來ノ面ノ或ハ互番式迄大急御

及中御來ノ案人ヲ割ノ役人ノ多ク 御

此うきと云ふに吾も西へ京大坂防府池田
を年々自れにけりけり言ふは為の事し
此れも由り申すは防府池田の事か
高人の
自れにけりけり言ふは為の事し
防府池田の事か
高人の
自れにけりけり言ふは為の事し
防府池田の事か
高人の

一 江戸京大坂防府池田の事か
高人の
自れにけりけり言ふは為の事し
防府池田の事か
高人の
自れにけりけり言ふは為の事し
防府池田の事か
高人の

一 二外近宮御各代 前田隱岐守

一 廿日御各代 稻葉丹後守 代太田備中守

一 御祭礼奉行 松平志广守 户田洪路守

一 代植村右衛門佐

一 上野長昌院殿御佛殿修覆奉行

一 御作事奉行 柳沢備後守 御目付小宮山庄九郎

一 三日飯浴御暇 上使大久保加賀守 織田能登守

一 四日銀五百枚綿五百把 近衛大將御方

一 跡目大勢被仰付 一柳因幡守

一 五月新女院使御馳走 一柳民平

一 六日土佐守跡式被仰付 一渡御臺所 一渡御暮六時

還御

一 七日近衛大將御方近々 御祭駕二付 上使間部越

前守織田能登守

一 黄金百枚紅白紋沙綾百反書棚一

一 朝鮮国ノ書持下候二付 金一枚時服二宛 吹坂在番

一 稻葉駿原田平兵衛 水野 奥津善八郎

一 十一日松平甚九郎養子跡式被仰付

一 時計間御番二 内田与八郎

官下司謀来向後可改由

一 木下右衛門佐初太夫 松平造酒正 水野大監物

一 水野右衛門佐 酒井左衛門佐初尉

一 一十五日公家衆御對顔御暇ノ節向後御普代衆ノ通

一 登城可仕由 相馬讚岐守 松平隼人正 松平主馬

御普代席被仰付

養女永井備後守、婚礼御礼時服立、間部越前守
一十一日 嚴有院殿三十三回御忌御法事書付五通

大成令

於中堂拜礼ノ次序

侍從以上埋國ノ内、四品埋國ノ外上ヨリ一置目
諸大夫、曰二置目、布衣、曰三置目

無官、曰四置目、以上

日 免

一十二王門黒川清水口車坂屬風坂新清水口より内

一玉乃大右より、侍口人、梅笠者一人

一兼儀一人、六天口人、一乃、皆月、乃、乃、乃、乃

一兼儀、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃

但、宿坊、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃

御香奠献上ノ覺

一三十万石以上、白銀廿枚

一十万石ヨリ、廿九万石迄、曰十枚

一五万石ヨリ、九万九千石迄、曰五枚

一一万石、少、四万九千石迄、曰三枚

一、可、万石以上、嫡子、曰五枚

一、十、万石以上、嫡子、曰三枚

一、九、千石以下、八、或、二、枚、或、一、枚

以上、免

一、一万石以上、面、涉、香、奠、献上、使、名、深、惟、子、長

一、袴、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、中、堂、ノ、乃

一、献、ノ、事

一 一万石以下三千石以上之面へ使ふハ深州子半
 袴ニシツ時より九ツ時迄ノ内 御成御門裾
 一 世介ノ面へ使ふハ深州子半袴ニシツ時より八
 時迄ノ内 御成御門裾
 一 右ノ趣六月九日ニシテ献ノ者ニ
大御会 系信ノ面へ日限ノ迄
 四月廿六日 一万石以上ノ法大各門端子長袴
 一 乃乃系信ノ
 廿七日 御普代流儀流券者若流儀並門端子長
 袴ノ内ノ乃乃系信ノ
 廿八日 廿九日 言家流儀若流儀並門端子長
 袴ノ内ノ乃乃系信ノ

一 中奥流儀五日ノ内 長袴ニシツ時より乃乃系信ノ
 六月朔日 布衣以上ノ法役人長袴ニシツ時
 二日 醫原御方ノ内ニシツ時より乃乃系信ノ
 三日 系信流儀長袴ニシツ時より乃乃系信ノ
 四日 五日 六日 法寺番流儀小役人三日ノ内ニシツ時
 乃乃系信ノ
 右ノ六ツ時ノ内ニシツ時より乃乃系信ノ
 日勢二王門ノ内ニシツ時より乃乃系信ノ
 一 十七日 五ツ半 巨紅葉山御社参御衣冠也御彼勤定
 西々ハ不及帯釵其外各帯釵行列ニテ即刻 還御
 一寸一日 端午ノ御服如例献上
 一 十九日 御白書院 出御 十万石以上御判物 十万石
 以下御朱印於御前頂戴 物 御斗目半袴ニテ出仕御判
 物 御朱印廣蓋ニ入諸太吏

一 中奥御小姓持被出大久保
 加賀守慶之在国衆八名代也
 大久保加賀守今度御判物御朱印御用相勤候ニ付
 御懇意ノ上御手自御腰物行光代金廿五枚并領
 昔同御褒美御腰物了戒代金十六枚安藤右京亮
 同御腰物末左代金十三枚 松平備前守
 万石以下一七御朱印可被下由ニテ先祖頂戴ノ御
 朱印寫指上ケ置
 一 廿一日同前御褒美 銀二十枚時服三 林大學以
 銀二十枚時服三 林七三郎 同百助
 金三枚時服三 御右筆組以 飯高一郎兵衛
 金三枚時服二宛 御右筆 首發又右張門
 三宅貞右張門 大谷木安左張門
 今日參勤御礼御殿大勢

一 廿二日辰下刻上野御參詣午台刻 還御是廿日依
 雨天也

一 廿三日去ル十四日 女院御祈崩御ニ付普請鳴物
 今日ヨリ廿五日迄停止依之京都一御使ニ可被遣
 由 横瀬駿河守 代 織田讚岐守
 大坂ハ御使可被遣由御小姓組番以 皆川山城守
 五月十五日御暇金十枚賜之

覺

一 諸大名參勤之節召連ノ人数ノ事元和元年ノ御
 定ト有之ハ此也年己來召連ハ江戶詰ノ人数次
 才ニ相増主人并諸家中之者不勝トニ成小由
 二 関召小且亦諸國居城居所亦為主ノ人数ト
 減之ハ事齊以不可然被 思召ノ多自今以後亦

一八日五ツ半時上野御佛殿一御參詣八ツ時還御

一九日御法衣相續惣仕

御法事相濟三付御腰物金平代并領阿部豊後守

一日公家衆門跡方御對顔御贈經御礼并御暇於席

々有御餐志

銀三百牧時服六園前中納言

銀二百牧時服六西門院前中納言

清置前宰相

銀百牧時服六山小路中務太輔山本宰相

銀百牧時服四慈光寺極前

伏見殿津田甲斐守殿使者進後刑尸大輔

使京極殿生嶋主膳正使井宮富小路宮内

大覺寺宮衣笠刑尸口聖護院雜務法印

西坊法印

勸修寺宮使者山口伊賀守

銀十牧宛庭田前大納

高野殿使者大納渡辺伊織

言野殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

言殿使者大納渡辺伊織

一条大政谷川正之丞
 所使者
 銀十牧時服四
 蓮花光板本式尸口
 院使者
 時服三
 樂人
 銀十牧宛
 繪所了疎
 大佛師左京
 銀十五牧
 大經師道泉
 同五牧
 同道以
 歸浴御暇
 上使大久保加賀守織田能登守
 白銀十牧宛
 妙法院御門跡
 青蓮院御門跡
 同断
 上使品川豐前守
 白銀十五牧
 久我殿
 一十三日駿府加番被仰付
 時服
 京極之岐守
 立花彈正
 松平教馬
 上野御法夏役人御褒美賜之

一十五日大坂御城代
 土岐伊予守跡
 内後記伊守改
 豐前守叙四品
 右段大坂御城中
 被仰渡
 二付御小姓組番及皆川
 志广守被遣
 御普代席
 松平信濃守
 住職御礼
 三束三卷
 遊行上人
 入院御礼
 一束一本
 浅草海禪寺
 左京御方御廣布番
 久松太郎左衛門
 病氣御免
 跡大久保
 路守組
 坂部弥右衛門
 二九御廣布番
 飯室与兵衛
 守日御免
 大置小次郎
 一十七日四ッ時
 紅葉山御宮
 御社参
 一十八日日光准后御餐忘
 於眞御能有之
 上野出家中
 御能拜見御料理被下

分限愷改

大目付

松平石見守

一十九日

同詰 豊前守 堀内 友伊子守

一廿日 紅葉山三御佛殿御参詣

御用被仰付 品不相知

御目付 天野弥五左衛門

加茂右近

御徒目付 四人 梶田市左衛門

成瀬又八郎

御小人目付 八人 御使ノ者 八人

黒鉄廿人

一廿三日 水野肥前守 養子 願之通 松平越中守 三男 伊

織被仰付 美濃加納筋大水流失家数多

小普請方

大井新九郎 跡 母 組 太田伊兵衛

一廿五日 紀州

新御番 土屋頼母 組 御書院

番 三浦肥後守

初ノ御目見時服 五金馬代

尾張殿

松平八三郎

一廿七日 跡目 大勢 被仰付

日 跡

同喜千之進

一廿九日 大御番 組 及 横地 半介 病氣 御

御書付 出ル 免跡 土屋山城守 組

小見山又七郎

万石以下ノ面々知行 処以村ノ書付 當年九月限

安茂右京亮 松平備前守方一差出候様 向々一

可被相違候以上

五月

一六月一日 御役替

大目付 寄合ヨリ

中川淡路守

大坂町奉行 五百石 加増 兼山甲

鈴木飛騨守

御先手 小姓 組ヨリ

神尾左兵衛

柔山甲斐守叔浦武兵衛依病氣御免

一二日縁組

松平丹後守若女之浦内侍若女、松平伯耆守若女居丹波守、
 小出信忠若女、松平九郎若女、松平中左衛门、
 松平下野守若女、松平九郎若女、松平中左衛门、
 大井新右衛门若女、松平九郎若女、松平中左衛门、
 山川甚良若女、松平九郎若女、松平中左衛门、
 石川源次若女、松平九郎若女、松平中左衛门、
 細井友房若女、松平九郎若女、松平中左衛门、
 一三日跡目大勢被仰付、松平伊賀守
 下屋布被召上替地増坪賜之、
 郡内領見分御暇金二枚宛、御代官小見山長右衛门
 飯塚孫次郎

一四日大番小十人小普請ヨリ御腰物方八人番入

御小姓組产田肥前守組富山左源太年寄候迄御奉

公相勤候ニ付御番御免御褒美金二枚賜之

駿州田中引渡御使番黒川与兵衛

御小姓組大置土佐守組園部健殿

御馬御用被遣由佐倉へ加茂勘四郎

府中、西川清左衛门中山勘兵衛

小普請吟味役、五十表御加増御徒目付ヨリ飯嶋惣左衛门

一七日御小姓組与朽木土佐守組金田能登守改周防守

一十一日浅草大蔵院在職、愛岩下真福寺

病气御免、御鑓奉行土屋市之丞

大坂御目付代、御使番鳥居權之介

御小姓組井上讚岐守組山園孫七郎

一十二日御鑓奉行土屋市之進跡小倉半左衛門

御先手西九表御門番及ヨリ御手洗五郎兵衛

一十五日根津權現祭礼御用寺社奉行松平对馬守

可奉行松野壹岐守御勘定奉行中山出雲守

隱居家督大勢有之

御書付出

嘉祥御礼之節布衣以下之寄合五百石以上八登

城五百石以下之分不及出仕之間被得其意可

被相觸以上

一十六日嘉祥着座被御付松平出羽守

堂上方御用相勤二付布衣被御付

不

十四日書付

上方御代官小坂仁右衛門

一十八日依病氣御役御免御徒及井戸新兵衛

一廿一日三九御番二本道松平主計及組峯岸春庵

一廿三日諸御番所大目付ヨリ相渡書付

御門番

一大手給人廿人士五人足怪百人

中间五十人ノ百七十五人

五節外其外正月八朔御成玄猪ノ節給人四五

人相増足怪ノ兆番之相番五十五人モ相増外

一内橋田給人十人侍五人足怪五十人

中间三十人ノ九十五人

一西九大手人数内橋田与同前

一 外橋田 給人五人
 中間廿七人
 一 神田橋 人数外橋田下町別
 一 和田倉 半藏口 常盤橋 給人四人
 一 士三人 足怪廿七人 中間廿三人
 一 五十三人
 一 馬場先 竹橋 田安 橋 給人四人
 一 士二人 足怪廿五人 中間廿一人 又 五十一人
 一 吳服橋 鍛冶橋 数寄屋橋 日比谷御門
 一 幸橋 人数馬場先十日別
 右之通隨分人女、于相勤可被申以上
 辰六月廿三日
 上屋布、外所、屋布次抱屋敷、分所并坪敷出付

一 此是出外取地、是亦出外
 他家來地、七出付、是亦出外
 六月

廿 屋布政御用 大目付中川路守
 御普請奉行 嶋田伍渡守
 御目付 天野弥五左衛門 渡辺外記
 一 廿四日 權僧正 浅草大護院
 湯嶋根生院 中野宝仙寺
 一 廿五日 御役替
 御先手 御料主 抗跡 堀田源右衛門
 御目付 御使番 大嶋因幡守
 御納戸 仙波七郎左衛門
 御小姓 組戸田備後守 組 稻葉多宮

御使番 松平伊勢 曾我平次郎 石川備 木下清兵衛

寄合 久留嶋数馬

御徒及 井川山城守 佐々木五郎右衛門

西丸御裏御門番 御手切番 伴野惣右衛門

大坂引拂并借銀三百貫目 土岐伊与守

繼日御礼 時服五金馬代 水戸殿家老中山内記

一七月一日御役替 御納戸及新巻 御加増 高五百表 权置弥太郎

御勤定吟味 御役料三百表

日断 萩原左衛門 上野 惠恩院

權僧正ノ御礼 一束一卷

役者英院家御礼 一束一本 日靈仙院

西丸御切手番及 伴惣右衛門 横山五郎右衛門

一六日跡目大勢有之

同日病氣御免 御目付 根来平左衛門

一十一日願ノ通隠居 細川越中守 家督同主税以

一十二日祈替

総州古河 本多中務大輔

日向延園 牧野大学

三州吉田 松平伊豆守

三州荊屋 三浦壹岐守

正僧正被仰付 小池坊 普門院

愛宕下真福寺住職 京六波羅

厂間席被仰付 牧野大学

新規被召出御番入御切米二百五十表宛被下

中村權之丞 田中左膳 久松左中

平野久米之進 井上平藏

下田町柿崎村刈崎村下田御番所附被仰付先規
通深津八郎右衛門支死被仰付

宛前御書付出外屋上屋布之介破之屋布抱屋布
取之地位之儀以業文之趣認之被差出外島細之卷
ハ別紙申入外以上 渡辺介記

七月九日

天竺赤之尾馬門

津田依渡守
中川淡路守

業文豎紙之認可被申候

免

一中屋浦 取付 何子何百坪

一下屋敷 取付 口形

一 地屋敷 年貢地年貢地 不付 誰交配日形

但親類縁者穿人家集之取付之者有之ハ其地未

書入一ハ不付

一 形 地 不付 何子何百坪

右ノ外 地屋敷取付 地自分ハ 不付 取集之取付
此者ハ 且亦支死之親類縁者男廿有之 不付 不
付以上

年号月日

誰之判

口人名付

免

一 地屋敷之事

前ノ公 改正之趣方ノモ 局家ノ名付之ハ 分
候家化團所取付之ハ 之被出外 至取化團所取

たは些一族を幸位之及いれりてきた家人考五返
小中の人被見し事信月仕りてきた子細をいへり
一族を打あし送る所なき不いゆい先彼等、意
て千原不病し執とも申述宜く一族と申候も人き
りこれ信りて千原むらゝく信りてのこあゝゝ家
中の事とも跨動せし御所決之及いれり申候
さくかゝりては折思家人申す千原も事分
明に同員披りきりては家人申すは皆り千原科
二河りき千原のハ召返りては知之子石下之遍
塞せしむへき申被 作出者也

辰八月三日

松平和泉守

今夜松平氏門家中跨動し申 御尋し次第をいへり

と云わ、日來彼家言本ハ念悲と申者左門守前由
定右衛門と申者し御、よりて不所信し申、其
云ルは一族を打候と送りて左門方、是れと事
送りしと、ソノ事取引、あゝ、是れ一族を幸位
故に以家人考も立返り申、依り彼家人考決定
不、おありて、且決し、申、及て家言申す一車
て千原なく左門不所信し申、ハあお申外一族を
申者見し申、て是れハ勿論、と申、ハ念悲一人中
不也信月、一車、家老、兼定、右衛門、申、事、不
承合、是れ、執、左門、取、計、此、申、事、下、事、不、兼、位
二、至り、小、子、御、不、審、五、り、申、通、塞、也、一、む、へ、き、申
被 作出者也

辰八月三日

之在門家人有評定不之たろく金糸之上定古場
と有使小不家在中一子として其院をくたの
不行証考く夏ふれ使小一族の中見見くくハ勿論
二ゆゆきもハ之衆一人の中衆と信用一云々以来
既に半年におよぶハ内事を右左よりせたる余の家
を并に定古場の守中不をもふれ合再世く号見
も及一族中合々弟絶一ハ改費を以て率余の
御不審く乃通塞せしむ一手中被 作出以上

辰八月三日

松平石見守

今度松平在門家中踏初く子 御尋く改費を以て
二云々以来彼家言本ハ去傍松平を改書す中
与をくたの不行証考く号見見一云々此松平和泉守

と一しめ一族もお評定遊小て是見くくハ勿論
ゆき取引にあつたは外中へ義絶し及ハ家人大子
与に傳使つきて立返ゆ中ハ人ハ去傍をたしめ
家人大子不一事として其院をくたの不行証考く
子あれ使一族を中見見くくハ勿論二ゆゆ
とも其方御使候に打寄るハ如新にお候に加り小
事料も一うをくたの不行証考く及ハ家人
直ク云ゆきも其係一きりゆきハ其考く思意
之く云ゆき率余の御不審く乃通塞せしむ一
手中被 作出以上

辰八月三日

松平对馬守

松平兵衛次

松平内記

松平徳左衛門

松平鐵助

松平縫殿次

カと修して于老と遊ぶるをけいしとて孫小一とて
半調ハ其水とてわたりて飛と松とれ 立返ハ改申主人
て鳥味ハ一子とて少ハ一子飛一考とて定りて永
く流とて初とて其者

松平左門家老 上田太席左門

今度主人左門家と立返ハ申許定不々松平金成
をいふと左門子孫定不々初メとてしりて不
詔し申すも一族を異見と加へしとて取引
今度故し申すも一族を異見と加へしとて取引
小及てハ定不々申すも一族を異見と加へしとて取引
主人不許詔し申すも一族を異見と加へしとて取引
舊代家老と名と小上とたとい主人詔し申すも一
らとて孫考し申すも一族を異見と加へしとて取引

終とてとりてハ尚し于志とてちり主人ハ家と共ハ
ウ知りともう知れぬハ不々此考し申すも一族を異見と加へしとて取引
鳥味ハ一子とて少ハ一子飛一考とて定りて永
く流とて初とて其者

松平左門用人 高木安太夫

今度主人左門家と立返ハ申許定不々松平金成
をいふと左門子孫定不々初メとてしりて不
詔し申すも一族を異見と加へしとて取引
小及てハ主人不許詔し申すも一族を異見と加へしとて取引
おとく定不々申すも一族を異見と加へしとて取引
小舊代家老と名と小上とたとい主人詔し申すも一
上ハたとい主人詔し申すも一族を異見と加へしとて取引
之とて孫考し申すも一族を異見と加へしとて取引

之志と申す人々あり、いづれも、この世に
世ホ、不存に、子孫傳へ、汝不、を以て、子孫
に、流傳、のき、也

松平左門家

鴉殿彦八

今度之人、左門家、立、近、小、事、許、定、不、お、り、今、身、
之、い、此、前、田、定、右、馬、門、半、より、也、取、中、の、案、立、近、の
こ、つ、き、左、門、の、孫、中、の、方、り、也、透、世、の、中、也、中、の、
取、を、故、と、も、中、身、年、久、変、共、こ、の、均、の、兼、て、よ、也、孫、中、
方、と、も、立、く、中、既、破、也、小、取、の、子、志、と、り、り、て、家
い、ゆ、と、も、又、左、門、中、事、の、り、不、世、ホ、取、と、り、取、り、
事、子、孫、の、も、の、り、の、也、惟、能、日、收、く、案、の、准、と、り、
ら、さ、る、不、立、く、依、て、子、孫、と、減、一、過、放、く、奇、料、の、以

松平左門家、近、友、加、平、太

上田半平

横田田田部

青木丹八

植村津門

横山吉左衛門

古沢松平

大竹喜朴

今度之人、左門家、立、近、小、事、許、定、不、お、り、今、身、
の、ま、り、不、立、人、年、來、の、思、案、と、り、立、き、取、を、一、時、
を、近、の、取、ひ、小、事、を、不、く、不、意、と、お、り、小、案、子、孫、傳、
う、と、惟、能、家、を、立、く、の、實、定、の、湯、山、伝、と、り、上、の、世
考、の、案、略、の、過、放、と、り、の、也

松平左門家、先

前田定右馬

今度之人、左門家、立、近、小、事、許、定、不、お、り、今、身、
の、身、ら、也、少、取、の、定、右、馬、門、之、人、の、初、中、の、方、立、
の、事、記、取、略、の、同、く、の、事、の、立、人、の、心、也、也

ハ或ハ別人ニ中付ル或ハ別人ニ死スルハ
此法ニ任ルハ此法ニ事ナシ人一人ノ折價也
小ハ此法ト承テ其家ニ立テ之トシテモ其方ニ相
違フニ任ルハ家人ナシト任テ其方ニ相違フニ
今此法ニ任ルハ其方ニ任テ其方ニ相違フニ
家ニ没人ナシハ相違フ飛科ニ任テ其方ニ相違フ
門尉御等ニ任ルハ其方ニ任テ其方ニ相違フ
被下ニ任ル也

屋代敏中守家来 川井友九郎門

去年ノ秋敏中守知事不檢見ニ其年貢米五分ノ増
米中付百姓及ノ押テ罷文任ルニ其方ニ相違フ
之ノ内之人理ナシト死飛ニ任テ其方ニ相違フ
頃ケル事ナシ飛科ニ任ルニ其方ニ相違フ

口人家老 林武太夫

家老役相勤年久愛知事不檢見ニ其方ニ相違フ
井友九郎門新法ニ任ルニ其方ニ相違フ
之モ同籍ニ及ビ此法ニ任ルニ其方ニ相違フ
大勢江戸ノ死出ル事ニ其方ニ相違フ
事ト其方ニ相違フ
繼主人中付中屋代門中付中屋代門
存小上ハ日没者一中屋代門
小彼是者ニ没者ニ其方ニ相違フ
茲迄故ノ事科ニ任ル也

口人家老 三井孫介

去年ノ秋敏中守知事不檢見ニ没人川井友九郎門
新法ニ任ルニ其方ニ相違フ

川方より長太郎の御子と見ゆるは其方長太郎の御子
二名見ゆるは侍と見ゆるは其方長太郎の御子
長子の仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
返すは仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
へき中とあるは彼は仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
小依り通塞せしむる中彼 仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ

八月十八日

御取 京極之計

其方相番井出左門長子長太郎五月廿六日夜死
心の中仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
二名見ゆるは侍と見ゆるは其方長太郎の御子
宛へ候様不仕立親類方へ
其親類も立合上列も仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ

小取仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
中身立之れも仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
小事よりハ長太郎御子と見ゆるは其方長太郎の御子
小取仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
候様不仕立親類方へ
一申候は長太郎御子と見ゆるは其方長太郎の御子
上同之通ハ長太郎御子と見ゆるは其方長太郎の御子
分心以て長太郎御子と見ゆるは其方長太郎の御子
不及仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ
申彼 仕立者事ハ又子と候様不仕立親類方へ

八月十八日

井出左門 井出左門

其方長子長太郎御子と見ゆるは其方長太郎の御子

八月二十日

于身も自教之及ひ来死之... 斗方へ告知せり... 不于方子而性之... 之中以長太郎... 帝印性之先中... 去八月十八日... 八月十八日... 及ひ其跡交り... 以上

御茶道

秋山順節

去月九六日 吹上御花畑、御成之行て御茶屋へ

内御茶屋へ申之候し果の... 御茶屋へ申之候し

前日順節南番より政の御算筈へ仕込入... 一々も翌日政之... 二ハ右足屋迄ハ... 三ハ其意より... 形も亦... 御意照を以て... 也

伊沢久徳

去月九六日 吹上御花畑、御成之行て御茶屋へ... 久住御茶屋... 候御茶屋... 于今南日御... 物之御屋... 也

不之藤末成仕形之存之程之小依之定科之約之
キトハ一トモ御意也以下御意及在取意及
通塞之仕也

中務久南

云月廿六日吹上御花細一御成之つきて御茶屋へ
久徳久南御茶屋飾小御茶屋之中と雖も原可也
之に依御食儀之知御茶屋久徳改飾之久南御
茶屋計改之及御成之茶屋一可也此中下た
ハ御成之御茶屋一可也此中下たハ御成之御茶屋飾
小多外御人長御上ハ御人より之と改仕也
後御成之御茶屋一可也此中下たハ御成一人之何也
至急之入改之御成之御茶屋一可也此中下たハ御成
均之御成之御茶屋一可也此中下たハ御成之御茶屋

御茶道組次 熊井宗伴

云月廿六日吹上御花細一御成之御茶屋飾
小御茶屋之内御茶屋之中一御成之御茶屋飾
御食儀之不御茶屋飾之御成之御茶屋飾
上之御成之御茶屋飾之御成之御茶屋飾
中如之藤末成仕形之存之程之小依之定科之約之
之存之藤末成仕形之存之程之小依之定科之約之
之存之藤末成仕形之存之程之小依之定科之約之

八月廿八日於氷野監物完一被中渡之

中渡之

小善法奉行組次

同官播磨守

竹田丹波守

今度之方書付之以下御成之御茶屋飾

人者今味被仰付平右衛門所名主平右衛門

加賀町名主平四郎 湯嶋名主六右衛門

瓶町名主兵部 雄子町名主市左衛門

右五入柳原豊嶋町六右衛門會所二丁吟味有之

一四日當春南部遠江守御預ケノ弓場段右衛門病

死ニ付死骸見分奥州八戸御徒目付被遣金子兩

御傳馬四足賜之 近後八部右衛門 米野清兵衛

一五日去ル廿六日ヨリ所々藏々米油炭等買置御吟

味トシテ町力十二人日心廿四人被仰付

一七日御小姓衆三百石宛御加増 阿ノ出雲守

新見伊与守 一柳玄蕃及

一 柳生主水仕播广守 阿ノ出雲守

一九日來ル十二日大五郎君三回忌御法夏於傳通院

執行御改名号理岸院殿

小石川傳通院後住 新田大光院

大光院後住 小金東漸寺 増上寺一喝 靈鑑

東漸寺後住 一十日奥州筋高札御用奈足 御徒 原田与一右衛門

一 日 宮川源介 御小人目付四人 夫ノ者四人

一十三日病气御免

御徒及 鼓乐善左衛門 小十人及三浦五郎左衛門

御代官 鼓配 勘窪嶋作左衛門 久下茂十郎

万石以下領地村政 平勘定 石川傳兵衛

一廿四日御役被召放丹波守八屋布被召上小普請入

小普請奉行 間宮播广守 竹田丹波守

御役替 桐間番及 御小姓ヨリ 建部志广守

久為河伊子与世女 山崎兵三郎 大友因幡守女 山田三内

安友治右衛門女 大久保牛之介 稻葉九郎門女 山田長右

戸田助太夫女 佐野主計 箕原左衛門女 神田久米市

諸国巡見御勤定御徒目付 被仰付

棋津大河内 御勤定遠山半十郎 龜田三郎兵衛

和泉大和 御徒目付野田源兵衛 山崎半三郎

伊勢丹波 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

播磨廣義 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

備前中備 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

但馬隱岐 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

石見 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

豐前豐後 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

筑前 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

駿河遠江 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

三河美濃 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

越前能登 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

武藏下野 鈴木新彦 石川四郎右衛門

常陸 黒部六左衛門 竹村後四郎

武藏上野 足田庄九郎 松井松左衛門

安房上総 廣原八兵衛 河野弥市

下総 小嶋九郎右衛門

左之面 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

右之面 御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

御勤定源兵衛 又八郎 山田次右衛門

十六日

前八私取村々ともうき色なる去西へ来り先至り
地取より取知村々へ中宿迄去遠原へ急ぎ下被中
舟小川上

辰八月

一廿五日御徒目付被御付内十四人御徒ヨリ

表火、番官守友十席 日上 枚山助九席

紅葉山 渡辺原左衛門 松前伊久保田十九席門

又久保 都筑又左衛門 日上 各勢三右衛門

春日内 近友十九席門 日上 石川清右衛門

稲生 郎 柴山権左衛門 月上 柴山忠兵衛

先少 馬場弥上左衛門 日上 永田文右衛門

本多 高倉仁左衛門 日上 矢部源外

新庄 識 飯田市左衛門 柴田三左 神田平太夫

丹羽 北爪又兵衛 菅沼 枚浦忠兵衛

大田 枚浦安兵衛

薩州日置郡串木野下申所ヨリ五里程沖一七月十

七日酉刻白帆一異国船一艘相見一乾一方へ来行

不相見候翌十八日右ノ所ヨリ四里程西ヨリ田村

卜申外ヨリ三里程沖一異国船碇ヲ卸夕ル体ニ相

見候有昨日ノ船夕ル一三ト鹿見嶋ノ警固段々見

分ノ支度仕候一ト天風雨強ノ准計ニ遲滞ノ内翌

十九日午刻出帆乾一方へ来行帆影ニ不相見候由

薩广守ヨリ注進

一廿七日家督被御付 大番及 水野 板倉筑後守

一九月一日御役替 板倉筑後守 石川備中守

御書院番及 板倉筑後守 石川備中守

御小姓組番石川備中守跡 森川下野守

御徒土屋内記跡 中山主水

一 巡見御勘定無二十人御暇金二枚宛御徒目付十人

金十兩宛

御徒中山勘ヶ由組小宅次右衛門跡 小沢伊兵衛

南都一乘院宮維廣會領千石被進

初テ御礼 時服三銀馬代 細川然次郎

一 九月五日 日光十七日御名代 吉良左京大夫 代長沢岐守

一 日御祭礼奉行 酒井信濃守 代板倉伊与守

日光海道林見分御暇 一 豊田次郎兵衛

銀十枚 御徒目付 小堀源左

評定祈一出不書付之矣

一 寛永以後御代に被作出小評定而法式評定無卯

半別々會合より申別退出其日難安申小評定

日再會より松又改新に及りきり申中の中云

上云一き申の外近年以来云々評定に于教多如來

外不評定に而申事に別き切に積裁形に次第評定

もな〜の會合より申事〜退出の形に申入小

右毎事其大法に依りて其理を及に不及して裁

断に至小評定に依りて然るに被 思石小事

一 評定祈并論事行にたろて此後小評定に澄出と

扱として及御の多事とい推事等其不事と云々

枝系より申事小評定に依りて其理を及に不及して裁

其扱より申事小評定に依りて其理を及に不及して裁

一 澄出も別用一きおに大法に背小評定に依りて其理を及に不及して裁

一六日於御座間大坂御假御馬時服二十

御黑印下知_知御手自御腰物内後豐前守

一七日願入通隱居松平致中守家督入日因幡守

五千表配分二男曰三郎_少家督入日因幡守

山城因淡松平丹波守領八月十八日大風雨十九日

洪水城內多門石垣崩家中不殘水入大破高二万四

千三百石余其外品損色流死七人損牛五足

五步内東海道義濃曰日大風雨

八月九月西國四國中國大風雨

十一日萩原近江守御役被召放寄令被仰付通寒

一十二日南部信濃守政大膳亮

來十五日神田明神祭礼上覽_付月次之御礼

每之由向後天明神祭礼有之年八十五日之御礼
不被為請_小右之旨可被相觸_小

九月十二日

一十四日酒井備後守跡式嫡右近被仰付

願入通御役御免御臺所_以足田勘左衛門

大番但_以知_人七_部兵_部知_依小笠原彦九郎

金地院後住_本多_因幡_守組_以札西堂

江戶崎大念寺後住增上寺伴_以觀微

今日增上寺御参詣相延_入

一十七日紅葉山御参詣少_々御風氣被成御座候_之付

御延引隨分怪_寺御表向_于每御汝_込

一十八日座頭中_入御書_付

駿府加番御殿 御孔氣故御目見無之

一時服四羽織 京極壹岐守

一時服三羽織 立花彈正 松平數馬

通塞御免 伊波播磨守 京極主計 井出左門

一日廿七日 金引曆御用 平岩若校守

日光御成ノ節御修覆 御用 大久保大隅守

却切米御張帑百表ニ付五十四兩

琉球國中 山王尚寧ヨリ薩州ニテ以使者献上

龍延香 三十袋 純子二十卷

八重嶋煎海鼠二連 泡盛酒三壺

御臺所ノ官香二十抱 色縞子三十卷 泡盛二壺

御不例御挨拶向生花一揃樽重一組御肴一種 井伊掃部

生花一揃樽重一組宛 老中 間部越前守 本多中務

太輔 樽重一組宛 若年 寄中

御留守居 大久保 浪路守 与力 石黒 源次 市屋布ノ内

居申渡 柳軒ノ申 穿人 下谷 池ノ端ニ所 屋布ヲ取

持其屋守ヲ切殺候故 坪内能登守方 更ノ上ニテ

源次 市屋 柳軒 西人 揚座敷ノ入

一日廿八日 月次ノ出仕有之処 公方 様女々御不例

怪申御様体ニ候ノ比 女御催被遊戈故 為御養生御

礼御請不被遊候 由於席ノ老中被申渡

去廿五日 大坂御城内 友豊前守上 岐伊守交代涉

一十月一日 出仕有之処 御挨拶御快然候 為御養生

御表ノ出御 毎之今夜 去猪ノ御祝 爰被相止候 由

被_二仰渡候御内々_三元御祝有_二殿中在合面々_一
 御祝被_レ下由
 御役替
 御勘定奉行 萩原近江守御普請 水野对馬守 改因
 御普請奉行 水野对馬守御加増 伊勢平八郎
 御持从 御目付兵衛跡 舟越五郎右衛門 改左
 定火消 舟越五郎右衛門跡 園部兵庫 改左
 佐渡奉行 萩原近江守御普請 神保新五左衛門
 御舟手 天野佐左衛門跡 石川源兵衛
 二条御藏奉行 御勘定百表 奈佐清太夫
 被召出御切米二百表賜之 嶋田幸菴
 公方様御不豫_二付_一 祢津_レ始方々_二了_一 御祈禱有_二旨_一
 一四日_一 戸間御誥無_二四五_一 日間置可被_レ付御機嫌由_一

根津権現祭礼十一月十一日卜被_二仰出_一
 此間穿屋ノ目明不_レ残死罪_二成_一
 昨三日松平若狭守付御機嫌御檜重献上
 御不倒段々御快然ノ旨諸無芙蓉間其外諸役人ノ
 老中演説
 一六日関白職近衛堪政殿御辞退八月廿八日勅許九
 条殿一関白宣下之由
 一七日秋元但馬守以御書付大久保大隅守一被_二仰
 渡_一

相州小田原
 右小田原宿ハ大破箱根と馬継及_レ禮も是_レ成
 名根_レ海及_レ新系_レ付人_レ可_レ疲_レ上_レ先
 年大化表_レ付人_レ大_レ燒_レ失_レ乃_レ死傷_レ考_レ

記州一上使奏者番高木主水正被仰付紀伊殿急
 御参府候様被仰付十一日足
 一 通塞御免 屋代敏中守 松平左門 竹田丹波守
 遠慮御免 萩原近江守 間宮播磨守
 一 十一日 十二日 十三日 御挨拶 惣去仕 御解
 一 十一日 御役替 掃部 及 老中 列座 上意ノ趣 被申渡
 御目付 御從 三宅 大學 同 巧 稻生 次郎 左 出 門
 新御番 佐橋 左 源 太 中 奥 中 根 半 十 郎
 御從頭 护 肥 前 永 田 弥 左 出 門
 酒井 岡 播 守 飯 田 善 右 出 門
 一 正 德 二 年 壬 辰 十 月 十 四 日 曉 公 方 様 薨 御 遺 骸
 増上寺一被為入旨御遺言假御位牌
 淨岳院殿蓮蓮社清譽廓然大居士正二位

勅號 文昭院殿贈正一位大相国公
 今日惣去仕ノ如於御黒書院下段掃部及老中若老
 中出座 公方様御養生不被為御叶今曉薨御被遊
 候 錫松君一御相續被遊候不相替御奉公可出情
 候 御幼君ノ御変ニ候間別テ可廊御忠節ノ旨被
 仰置候尚又 御書被差置候間并聞可仕旨掃部及
 被申渡之 御遺書白木三方ニ載林七三郎奉讀之
 不肖之身
 東照宮之御統ニ承一ノ此ノ天下ノ改事
 在ニ 林徳ノ嗣人ヲ以テ心ト志トシテ在ニ世
 一 日短ク一ノ志ヲ遂サシメテ及テ一ノ
 事不ト志シテ古ノ志ヲ知ク玉巻キ代トスル
 一 千世の人権ニ奉ル堂トシテ心相和シテ

してお錠おこよろこばいなり 胡絨の人も取と
曰くくしてあを偽るこも心と一つありてた力
とるこもう時い凡彼の物ともいふるこもい
今の世の人南家創業の後治平百年より相生
き相長とるこもい 東恩宮の御恩よす
さうりの 何人き人こす 御恩よ新いすて
世のいり人のいめと偽るハ右のま知く不危き
代このゆちといて偽き戒とす 御恩よす
あを偽るこもい 南家く厄難とすのこもい
あを偽るこもい 南家く厄難とすのこもい
正徳二年十月九日 御黒下
右讀畢テ元禄年中に來ノ金銀位悪敷通用指支候

様ニ被 聞召候金銀ノ数ハ万国ノ宝タルノ如ニ
右ノ通ノ儀不可然被 思召候 権現様御代御定
置被遊候通御改可被仰付ト被 思召一内御延引
被遊候追テ御書付可被指出候何茂可致兼知候旨
被 仰置候段但馬守被申渡之
普請鳴物停止
御遺骸被為 入候旨増上寺へ御使本多彈正女弼
右ノ段日光准后へ被仰遣 上使三宅備前守
町中へ御觸
町中中番御定之趣今晚ヨリ昼夜召至て申ルを
表間敷ニ懸一色桶をとり入至て申すも小放
免をいしとハたし色お守て申すも申すも
外以上

本堂裏口 石川近江守 良源院
城清院

日火之番 戸田土佐守 清光院

友枝若狭守 源流院 諏訪主殿 德水院

永井修理 源壽院

京都大坂紀州一御書置被遣 上使御使 津田外記

十八日 亮足 薨御以後 紀州一 早使御奏者 番高木

主水正

京大坂駿府伏見一上使

井上讚 石川三右衛門 大正土 曾根源彦
佐守祖

落髮益用 旨御遺言一由 間部越前守

落髮益用 上様一被為附一由 堀川兵戸大捕

大沢右衛門督 宮原刑戸大捕

落髮 御小姓 間部隱岐守 稻生河波守

村上市正 間戸泙路守 一柳玄蕃及

河野信濃守 本目讚岐守 中根大隅守

御小納戸 酒井宗右衛門 五十幡八右衛門

竹本宗右衛門 五十嵐市十郎 建部彦四郎

細井友左衛門 加茂是三郎 小笠原頼母

鈴木百介 表川与右衛門 窪田弥十郎

蜂屋左兵衛 村田十郎右衛門 舟橋半右衛門

鍋松君 上様卜可奉唱之旨

十五日 十六日 惣出仕 御目付中 十六日 下被申渡 十七日 益出仕

十八日 万石已上 十九日 万石已下

金銀之御遺書

被仰出候趣

緞の利と名いし大徳白く價ハ千疋と賦して高
 莫付のつきゆゑに年未く御不意の六
 之くは有り返すは天下に於て除くまじし一若く
 下之を儀の好まざる所もたる厚自に金銀を散らす
 之域やうきんもさうは事と高工高く致して
 利の半と名いしゆのゆゑにへつとと名いし
 いてい云下と人とは古に千疋と名いし
 只つりまの原も金銀をりしに取至り代との為
 東照宮定ふれし法のとくこる一返りたる
 御不意のゆゑに云下と名いし高工と名いし
 作出者也

正徳二年辰十月十一日
 一十八日火事ノ節回被作付

- | | | | |
|----------------|--------|-----|-------|
| 神田橋 | 松平因幡守 | 常盤橋 | 公井周防守 |
| 一ツ橋 | 松平遠江守 | 馬場先 | 松平丹波守 |
| 外橋田 | 板倉近江守 | 田安 | 牧野讃岐守 |
| 御出棺御道筋警固ノ面々被作付 | | | |
| 松平肥後守 | 堀田伊豆守 | | |
| 松平摂津守 | 海口仰耆守 | | |
| 松平日向守 | 小笠原信濃守 | | |
| 松平出雲守 | 太田原飛騨守 | | |
| 松平右近将監 | 石川石之介 | | |
| 松平大守次 | 青山下野守 | | |
| 松平大炊次 | 蜂須賀飛騨守 | | |
| 松平左京太史 | 松平備前守 | | |
| 松平安藝守 | 戸田淡路守 | | |

有馬玄蕃

本多遠江守

細川主税

板倉甲斐守

松平去佐守

柳生備前守

松平播磨守

松平山城守

松平但馬守

稻垣大藏

松平伊織

戸田大隅守

松平和泉守

板倉伊子守

内後主殿

御詔相謝

右廿五日

御徒及衆

宿坊

御徒及衆

小十人

御祐筆衆

醫者衆

御出棺道節

御出棺道節 半藏門ヨリ 内田信濃守屋布前井伊

掃部及屋布照御堀端通 永井備後守屋布前上

秋民ノ太浦屋布前照ヨリ 小笠原山城守前通龜

井隱岐守前ヨリ 新橋京極若狹守前通愛宕下牧

野駁河守前松平隱岐守前照ヨリ 池田丹波守前

平野右衛門殿前宇田川町通濱松所ヨリ 増上寺

表門ノ道法三十九町 増上寺内舍利降候由

御出棺ノ節御玄關前又ハ

一廿日 御三家 松平加賀守 御普代

一廿一日 外様大名 諸物及 諸役人 寄合等

一廿二日 諸番及 諸物及 諸役人 寄合等

右之通可有出仕候

明後廿日 御出棺之事候間火之元入念申付候様

西へ入可被相達候以上

十月十八日

於増上寺御法事中下馬下衆之覺

一表門ハ矢来際花序所水戸ノ外裏門ハ長谷川周

一防守屋布眼石川近江守屋布眼ニテ下馬之事

一参詣ノ面々表門ノ方ハ源舟院前裏門ハ庫裏門

一宿坊有之面々ハ断次家来可相通事

免

一御直参ノ面々盤子更ニナシ

一陪仕ノ案ハナシ也ナシ也ナシ也御目見

十月廿日

薨御之節執權矣

大老 井伊掃部以直治

老中 加朔月免御免 土屋相摸守政直 秋元但馬守喬知

大久保加賀守忠増 井上河内守正峯

阿部豊後守正喬

御側衆 同部越前守詮房 本多中務太輔忠良

若年寄 久世大和守直之 水野監物忠之

鳥居伊賀守尚救 大久保長門守教重

御三家日ノ御精進物献上ノ義窺之処御祝義ノ献

上物迄延引可有由 廿四日外様万石以上

一廿三日固持四品以上

一廿五日御三家松平加賀守御普代衆詰衆

一廿六日諸番及諸物及諸役人寄合等

御法号 御臺所 天英院殿 御部屋 法心院
於此免御方 蓮宗院 左宗御方 月光院
御法事ノ日限
十一月三日 申越初夜御法事
同日四日 戸部讀經始
同日十四日 晨朝廻向
御役所 佐渡一被遣 小 月 米分二百人 扶持宛賜
河野勘右衛門 神保新五左衛門
當月七日 仙洞御所 近忠前提政殿被為 召之
當十一歳ノ姫君 入内被仰出候由
御側衆 御小姓衆 御小納戸衆 御側坊主衆 何七只今
迄ノ通可相勤旨被仰置 小 由云 此 十五日 掃部頭申
渡

一廿六日 方角火消被仰付
芝口御門ヨリ 赤坂御門迄 中川内膳正
伊東播磨守
赤坂御門ヨリ 市谷御門迄 藤堂備前守
稻垣大藏
白銀町ヨリ 芝口御門迄 相馬讚岐守
仙石越前守 龜井隱岐守 本多遠江守
白銀町ヨリ 昌平橋迄 細川熊次郎
板倉甲斐守 佐竹壹岐守
昌平橋ヨリ 市谷御門迄 石川石之介 坂本貞
出仕廿七日 国持四品以上
廿八日 惣出仕 廿九日 外様万石以上
晦日 御三家松平加賀守 御普代衆 日孺子 誥衆 並

一十一月一日惣出仕
一二日諸卷及諸物以諸役人壽合等
於増上寺御法事

二日御尊送西刻大方丈ヨリ 御出指

三日申刻初夜御法事

四日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

初七日 四日未中冠大光供養 申上刻初夜

九日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

二七日 五日未上冠日中法要 申上刻初夜

三七日 六日寅上刻晨朝 卯中刻施我鬼

辰中刻讀經十部 申上刻初夜

七日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

四七日 七日未上刻行得 申中刻初夜

八日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

五七日 八日午上刻頓写 申上刻初夜

九日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部 申上刻初夜

十日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

六七日 十日未上刻散花供養 申上冠初夜

十一日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

七七日 十一日午中刻法問 申上刻初夜

百々日 十一日午中刻四ヶ法要 申上刻初夜

十二日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部 申上刻初夜

十三日寅上刻晨朝 卯中刻讀經十部

都合万部 十三日申上刻初夜 御飯寮御法要

十四日寅上刻晨朝 初ノ御忌日 御飯寮御法要

参向之公家無御馳走被仰付

勅使 久我内府 龜井隱岐守

仙洞使 中院大納言 六右伊賀守

女院使 小倉宰相 大田原 飛彈守

宣命使 女納言 溝口 伯耆守 代南部遠江守

来春長昌院殿御法會万部之由女中御法事二八初

テト云去十五日御法事奉行大久保加賀守兼之

参詣之面々日限之覺

十一月四日 御三家并松平加賀守参詣可被在候

事

五日 諸大名一万石以上ノ衆并嫡子可為参詣事

六日 七日 高家無誥衆奏者番衆日嫡子誥衆並日

嫡子番及衆芙蓉間御役人中與衆兩日ノ内一度

可為参詣事

八日 九日 布衣以上ノ諸役人醫師兩日ノ内一度

可為参詣事

十日 寄合衆可為参詣事

十一日 十二日 十三日 諸御番衆小役人三日之内

一度可為参詣事

右約六ツ時より四ツ半時迄ノ内 約長以上ハ 右岳四

尺端太夫ハ 狩衣布衣ノ面々并々 法平法眼装束

此店ハ 長袴忌之ノ儀 長袴牽馬并々 同勢表門ハ

矢來ノ並并所本戸ノ表門ハ 長谷川周防守

屋布服石川魚江守 扇發脇ノ御至ノ中ハ 以之

是

表門裏門ノ中内ノ玉持大名ノ一々云云 右約四人

袂箱持一人 扇發九一人 六尺口人ノ一々ノ儀

此有面々之時、裏抄のうき抄う彼石進之ハ
介又その一切倚山之位之、寄坊有之西々ハ、
断改申以上

御香奠献上之覺

- 一 白銀五十枚 六十万石以上
- 一 同三十枚 廿五万石ヨリ五十九万石迄
- 一 同二十枚 十五万石ヨリ廿四万九千石迄
- 一 同十枚 十万石ヨリ十四万九千石迄
- 一 同五枚 五万石ヨリ九万九千石迄
- 一 同三枚 一万石ヨリ四万九千石迄
- 一 同十枚 卅万石以上ノ嫡子同隠居
- 一 同五枚 十万石以上ノ嫡子同隠居
- 一 同一枚二枚 一万石以下ノ面々

表裏御免

- 一 一万石以上ノ面々 御香奠献上ノ使者厨斗目
- 一 半橋ノ一ノ時ノ時ノ九ツと之ノ内裏門内之に在誠
- 一 之方丈ノ可也お地ノ事
- 一 以外ノ面々供名ノ厨斗目半橋ノ一ノ時ノ時ノ
- 一 八ツ時迄ノ内裏門内之に在誠方丈ノ一ノ時ノ時ノ

右ノ趣ノを納之ハ口限ノ事ハ進ノ了ル迄ハ以
上

御法事中練礼之席

- 侍従以上 埋國ノ内下ヨリ一疊目
- 四品 埋國ノ内上ヨリ一疊目
- 諸大夫 同上ヨリ二疊目

布衣 同上ヨリ三疊目

每官 同上ヨリ四疊目

普請以來止四日ヨリ御免ノ間可被相觸候以上

十一月朔日

出仕之覺

三日 惣出仕

四日 高家殿諸衆奏者番衆同嫡子諸衆並

五日 諸番及諸物及諸役人寄合等

六日 不及出仕

七日 御三家松平加賀守御普代衆

去廿六日御代替之御用被仰付

奥御祐筆 服部源八 小池与左衛門

来年始御作法并可取和旨事作付

奥御祐筆 馬場水工之介 飯高弥太夫

十月廿五日 方角火消一渡り書付

一 出火小川 居家と云れ初うはか 大火と云れ居

一 居屋交一 風節惣爰又一 色方と云れ

一 及及居屋交、居屋火消と云れ 居家と云れ居屋

一 出火惣爰小川、居家と云れ

一 幼少病室惣爰又一 他家と云れ 居家と云れ居屋

一 火中場と云れ 居家と云れ 居家と云れ居屋

一 火中場と云れ 居家と云れ 居家と云れ居屋

一 火中場と云れ 居家と云れ 居家と云れ居屋

一 火中場と云れ 居家と云れ 居家と云れ居屋

一 火中場と云れ 居家と云れ 居家と云れ居屋

一 火中場と云れ 居家と云れ 居家と云れ居屋

一十二日來此十五日増上寺へ御香奠可有献上由
一十三日紀伊中納言殿去二日国元御祭駕今日着

覺

表國持外様一万石以上表高家寄合并小普請ノ
面々ハ明後十五日ヨリノヤキヨリ可被申ル
御普代無詰無詰無並番及諸役人御番無サリ屋
ノキヨリハ依テ延引可有候

但増上寺ノ相詰候面々ハサリヤキヨリハ
無用也

十二月十三日

一十四日初忌日御名代土屋相摸守著座井上河内守
御三家并御大老以下ノ御役人一御遺言
大病重日々今日ト跡後惣別ハ鍋松車知一ト

家督ノ後方ノ改革此迄未思召己也 寛永永
来高家為代又代ノ附属輩 東照宮ノ御恩也不

逆を近心を一ト一トをキハ累致して近キハ
徳松更方切心と云一頁と致一也其を呈見一

期してハ海安切ノ事と縁ノ 准之其面々
ノ類業と恭ノ家業トノ事ハ今又有ノ如人ノ及

也及キハ老ノ方ハ裁制多分と可ハ心及ノ改革
ト云ハ少也

正徳二年辰十月九日 御黒印

三家大老附属ノ連枝譜代奏達之輩諸役人以下迄
ノ義也一ト一ト一紙と綴

出仕之覺

十一月十九日 諸番及諸物及諸役人寄合等

廿日不及出仕 廿一日因持衆四品以上

廿二日不及出仕 廿三日外様万石以上

廿四日不及出仕

増上寺参詣之覺

十一月十六日 松平加賀守四品以上外様万石以上

十七日 御普代衆高家衆詰衆奏者番衆同嫡子詰

衆並同嫡子

十八日 諸番及諸物及諸役人寄合等法印法眼

右方丈一布衣以上 熨斗目長袴布衣以下 小殿

斗目半袴着之可為参詣候

一十五日 公家衆御殿之付奏者番松平備前守高木主

水正月額御免 十六日發足

公家衆御殿 十六日發足

銀五百枚時服十阿部豊後守上使久我内大臣

同三百枚時服六中院前大納言日斷鐵田能登守

同二百枚小倉宰相宣余使

同百枚時服也平松女納言宣余使

同三十枚時服二平田中務女輔女内記

同二十枚時服二青木雅乐允副使

右之外贈經使者不殘御殿白銀時服賜之

増上寺万部之内聽衆人數

十一月四日 三千二百七十七人

五日 一万千三百人

六日 一万九千三十人

七日 二万三千七十人

八日 二万千三百人

九日 二万三千四百人

十日 二万五千七百八十人

十一日 二万九千六百十人

十二日 三万二千五百人

十三日 四万人

松平敬後守光長八十八歳迄ノ指斜ノ大小被献

御刀一尺八寸 三茶古家代金三十枚

御眼指一尺 未回卷代金十五枚

御鍔大小共水牛黒塗御故蒔繪金逸懸

御縁御故付 御下緒紅

御筭小柄唐水御故蒔繪 御小刀竹銀薄ダニ

去九日横田備中守宅ノ留守居共招之御代替御礼

真御太刀献上可有旨被申渡御方

松平薩广守 松平陸奥守 松平肥後守

松平伊予守 松平敬後守 松平沿路守

宗对馬守 松平右衛門督 松平甲斐守

上松民ノ太捕 松平安藝守 松平大炊乃

松平丹後守 松平民ノ大捕 藤堂和泉守

佐竹大膳太夫 有馬玄蕃乃 松平土佐守

細川主税乃 松平肥後守 松平出羽守

伊達伊織

御三家ノ去七日御城附ノ於殿中豊後守申渡

松平加賀守 大目付ヨリ被申達

一十八日増上寺ノ諸大名参詣ニ付辻堅

秋田信濃守 内后主殿乃

一十六日 青山下野守 一十七日 加友左膳

一十九日來二月於上野長昌院殿御法事御番

文珠樓土井因訪守常照院

一十仁五門小笠原信濃守覺成院

中堂表口牧野讚岐守本覺院

曰表口松平兵庫次明王院

清水口內田信濃守等覺院

車坂松平主馬次修禪院

扇風坂本多若狹守一乘院

新清水京極主膳正養壽院

曰御法事中火之番後堂源五郎秋元隼人

長谷川久三郎保田内膳

曰御用被御付御賄方山田小兵衛

小普請方川村弥兵衛加茂源次

御祐筆首友又右衛門橫山源次可兒孫四郎

出仕之覺

十一月廿五日御三家松平加賀守溜詰御普代衆

廿六日不及出仕廿七日不及出仕

廿八日惣出仕廿九日不及出仕

一廿五日紅葉山御佛殿御手傳小笠原右近將監

曰御用御作事奉行柳沢備後守

一廿日斷小普請方金井六右衛門太田伊兵衛

人參座賣買只今迄銀二匁調候向後金子青銅二匁

取三越可申候

宗对馬守參勤向山公方様菟御之茂朝鮮国

申遣候八、前々ノ通為吊礼驛官可参人向對詰

上參勤可有由

高野山学侶龍光院伐無量壽院後住被仰付

御代替二付日光極月十七日御名代松平肥後守

同日御名代青山下野守代板倉近江守

京都金十五牧時服三中余山城守代前田伊豆守

同日伊勢金十五牧時服長沢壹岐守代京極大膳大夫

一廿九日御遺物被遣

御服差栗田二百吉光達部墨跡上使加尾張殿

御服指栗田二百吉光虛堂墨跡上使人紀伊殿

御服差栗田二百吉光大燈墨跡上使相水戸殿

御服差栗田二百吉光上使水野監物松平加賀守

御刀近景代金於御殿并領同若救守

御服差栗田二百吉光同主稅及

御屏風松榮筆仙人上使土屋相摸守准后御方

源氏物語青磁御香炉天英院様

源氏物語十種香筥月光院殿

銀詠集為氏筆御壺田中瑞春院殿

千載集為定筆御壺養仙院殿

古今集雅觀筆御壺松姬君

古今集為實春筆御壺竹姬君

歌仙手鑑公家無寄合書繪探信筆美代姫君

源氏物語御料帟硯法心院殿

源氏物語御文墨硯蓮乘院殿

御臺薄雲壽光院殿

掛物布袋點菴筆井伊掃部

同寒山十德繪讚土屋相摸守

一 使者御礼之日御太刀可有献上下右使者素袍
 可着少
 一 万石以上隠居之無不及御礼外在取及御礼
 之日以使者御太刀可被差上
 一 万石以下諸大夫并三千石以上在取又御役所
 互之面より病氣五分以使者御太刀の
 献上日限ハ遊テ可相達
 一 御番無ハ七向一組ヨリ五六人宛御礼可有
 之ハ他御腰方五六人御納戸ハ組及之元方
 拂方より十人宛御礼色ハ南番切動定方ハ組及
 之ハ十人宛御礼出
 一 御役所後掃部及中御前中務出補若年寄中
 一 御役所日限ハ遊テ可相達ハ不込人取之可

被心付

一 右日影に付在国在取又ハ幼女病乳之面ハ使
 者より御礼外日限ハ遊テ可相達
 一 寺社及祓人町人年始御礼外日限ハ遊テ可相達
 一 及及ハ年始御礼外日限ハ遊テ可相達
 一 右ハ屋の御礼外日限ハ遊テ可相達

十二月日

右万石以上ハ大目付ヨリ右通万石以下ハ御目
 付鈴木傳介取向客初負稻葉多宮中根半十郎ヨ
 以相筋之
 鳥物ハ依所作之仕外取式計明後五日ヨリ御礼
 免以上

十二月三日

一 来ル五日朝 御中陰明、身四品十萬石以上、
 面々互玉互不、御者、うを、融上ル御者、
 何れも、
 一 天英院様、白銀三十枚箱看一種三十萬石以上
 日廿枚日取十萬石以上、日十枚日取五萬石以上
 日五枚日取一萬石以上、日五枚日取十萬石以上
 嫡子日隱居
 一 月光院様、白銀二十枚 三十萬石以上
 日十枚十萬石以上、日五枚五萬石以上
 日三枚一萬石以上
 右之通、二九迄、以使者、うを、差上ル位、日限、
 遊、
 十二月

一十二月一日夜下谷火事増火消

松平伊豆守 蜂須賀飛騨守 亀井隱岐守

相良近江守 安部堪津守

一 二日ノ月三日月ヨリハ光ツヨリ内ニ星入後ニハ
 月ノ下ニ星付月ノ光リヨリ星ノ光ツヨク候

一 五日芝神明前火事増火消

小笠原山城守 亀井隱岐守 永井備後守

井伊兵平女將 鍋嶋和泉守

一 六日從四位下中將 松平肥後守

右依御遺言被 仰付之日光、御暇賜リ来ル十

三日祭足

青山下野守御暇賜之来ル 十二日祭足

長汰長岐守御暇金十枚時服三羽織賜之

御側衆拾被仰付 今又見因幡守 三枝櫻津守

此兩人御誕生ノ節ヨリ 相勤候ニ付御側衆並被

仰付

屠獲御用被仰付 今大路道三 代半井野菴

表高家被仰付 鐵田能登守日格 大沢右衛門督

本庄新錢座見廻御用 御徒目付 宮川源左衛門

竹嶋与五左衛門

大村筑後守 跡式被仰付 日伊与守

百表御加増 合五 月光院殿御用人 安友介之進

月光院殿御用人 御廣布番及ヨリ 坂部弥右衛門

日新 御廣布番ヨリ 川窪彦之進

御小納戸 日所ヨリ 渡辺善左衛門

錢買並ニヨリ 小五五之由有、之付先送与共

解ノ不 今以買金、之、又ハ他玉、之、取也

之、之、仕込、之、仕込、之、仕込、之、仕込

不申、之、之、向後錢買並ニヨリ 他玉、之、取也

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之

辰十二月

一六日 御代替今朝御名代

紅葉山御宮

上野三御佛殿

秋元但馬守

井上河内守

増上寺兩御佛殿 台徳院殿

阿部豊後守

一九日白銀五百枚上

准后御方

右、御志、御法事御執行、御布施被進

御白書院御修覆出来役人賜慶

御役

御納戸及小名左大左武嶋左門

新御番但及御佐橋左源太跡新有田九右門

大御番但及小見山又七跡門奈助左門

御量奉行及御徒香目左跡滝野平右門

大奥御年男被仰付及御徒香目左跡松平主計

奥御年寄無列御書付出及御徒香目左跡常盤井 三空

高瀬 川嶋 丹後 御乳人 倉橋 氏久代 龍馬一

十七日日光御宮、進献 雄劔一振 金十枚

足白毛

廿日御佛殿、御太刀一腰御馬一足横金

伊勢内宮、雄劔一振即久代龍馬一足横金

月外宮、雄劔一振即久代龍馬一足横金

一十日内、能登守卒

一十一日御代替後初、御表、出御御礼被為請

於御座間、參勤御礼御家门方、御手自願斗目被進

時服三十銀五百枚 記伊中納言殿

於黒書院參勤御礼

銀三百枚 錦二百把 色糸百斤 松平丹後守

時服五金馬代箱着御地并領 堀田伊豆守

錦二百把金馬代 堀田伊豆守

錦百把金馬代 戸田能登守

溜八間家督御礼

金三十枚時服二十

時服千金馬代

金

繼目御礼金十枚時服五

金五枚時服三

參勤金馬代飲饒廿卷

銀馬代時服三

半年曆參府箱看 稻葉丹後守

安部根津守 保科兵卫女補

竹ノ間駿府加番歸 羽織三銀馬代 土方丹後守

馬糧三銀馬代 一柳主税

雨鞞履三銀馬代 石川藏人

右御通掛御目見

紀伊殿家来時服三銀馬代 水野安房守 三浦遠守

松平因幡守家来銀馬代 久德隼人 吉村權左衛門

隱居献上 御刀守家代金 御壺 松平越中守

天英院殿 古今集侍法 瑞宗香筆

日断 御刀延壽國寶代 相良志广守

遺物 御刀吉園一文字代 金十三枚 酒井備後守

御刀備前是光代 大村筑後守

小十人番入 松前伊豆守 支配七郎右 柴山次郎右衛門

清心院殿御用人 諏訪庄兵衛加増 御用達 玉田忠四郎

日御用達 忠四郎御用達 足采 竹内吉左衛門

上野長昌院殿料百石 増被遣 由役者靈山院 被申

渡

五山惣祿被仰付

金地院

一十二日昨日初

御對願二付御登城

水戸中納言殿

紀伊中納言殿

昨日初于御表

出御三付御三家ヨリ御樽肴被

献之

二万石御加増

松平兵部太輔 或知

千七百石御加増都合三千石

太田内記

二十石御加増都合三十石

勝田帶刀

新規十石

寄合帶刀甥

同左京

同五百石

日 日

同頼母

新規二百人扶持

帶刀養父

日光院 同玄哲 殿実父

右御遣言二依于賜之

御病氣為御尋御者一種被遣

上使大久保長門守

尾張中納言殿

林百助月並ノ講尺有之

一十五日惣出仕有之尾張殿水戸殿病氣二依于每登

城

被為召官位被仰付

少將

松平左京大夫

從四位下侍從尾張殿舍才

松平八三郎 改大隅守

同断

日断

同喜千之進

成安房守

同断

肥後守嫡子

松平十五郎

改大膳太

諸大夫被仰付

堀勤員 左京進

稻垣大藏 信濃守

加茂左膳和泉守

松平主馬 勤員伍

松平内記 疋馬守正

嫡

水野伊織

肥前守嫡

伊勢平八郎

御普請奉行 改伊勢守

布衣役人廿一人被仰付

吉田橋御普請御平傳

秋田信濃守

松平宮内女捕願ノ通和泉守才小三郎養子被仰付

尾張殿願ノ通諸大夫被仰付 家司阿部饒殿

明細書御認来ル 十五日前より差出ル列案紙を之

以上

十二月五日

松平石見守三

明後十八日

御代啓事記有之間先送らる御解

うき宅 城ル

十二月十六日

大 御代啓事記

来ル 十八日 正月三日 出仕より一日 望城事記

を之レ記す 宛先お解 願 之レ 四日 城ル

一 拾五ツ 時より 四ツ 時迄

一 万石以下 時を丈 再三十石以上 至和又ハ 御没不

二 多之 而ハ 至不 病者ハ 分ハ 来ル 十九日 以 使不

御 太刀 うち 敵ル

一 来ル 十九日 廿一日 廿二日 此 后 御 祝 賀 宛 先 有 候

以上 願 之レ 城ル

一 至 至 至 不 又ハ 知 少 病 者 之 而 之 ハ 右 三 日 之 口 使

者 之 差 致 候

一 万石以上 之 而 之 天 英 院 様 月 光 院 様 一 致 上

物 来ル 十九日 廿六日 時 之 里 四ツ 時 迄 二 九 御

物 番 前 之 うち 各 各 上 之 廿 中 之 給 由 日 以 後 更

宛 先 相 解 之 趣 之 城 城 候

右 之 候 之 趣 之 城 城 候

大

十二月

一 某等ノ為被儀掃放及包味被多中勢在捕着年
 一 年中一話有被儀并北八日着儀多治身又合及迪
 一 合儀ニウ北儀并
 一 年及ハ三日ト包七日止ノ内右何ト一及迪合儀
 一 勝儀次儀ニ及儀并 所風烈ノ長ト年礼ノ及
 一 用中
 一 多社ノ及トウ被儀并ノ及儀并 西人藏人等ト一
 一 右儀并トウ被儀并 他儀并 若大勢及ノ及儀并
 一 以上
 十二月

今日暮象戲被仰身

本因坊 仙角 先三目勝 宗印 角落
 門入 先二目勝 因節 宗紹 勝

一 十八日己后刻御表、出御御代替ノ御礼御規式
 書ノ通相致

御白書院御着座元日御白書院御目見四品以上三
 代リニ出座御礼大廣間御着座正月二日着座因持
 大名二代ノ出座御礼日所松ノ間一ノ間二ノ間柳
 間面ニ并万石以下ノ諸太夫布衣并無間輩素袍ニ
 于御礼御白書院帝鑑間正月三日御礼長袴ニ于御
 礼

一 十九日十万石以上嫡子隱居ヨリ天英院様ハ計御

祝儀指上候筈ニ候ハ、元月老院様ニ指上候筈ニ
 成候間二九仕廻候ハ、中ノ口廊下ニ可差上由
 十九日廿一日廿二日ノ内為御祝儀何ニ老中可被
 廻候事
 在国在所ヨリ御側衆ノ書通ハ前々ノ通西人ハ連
 紙一通送物ハ御側衆ノ通ニ三枝撰津守
 久具因幡守
 坂部安次郎如少ニテ先年病死跡目益之ニ付名
 跡願ノ通故儀ニ付候先祖御奉公仕候者ノ筋目
 故當五月ノ殿有院殿三十三回御忌ニ付名跡相
 續可被 仰付候間相応ノ者ヲ可相伺ノ旨是田新
 石取ノ被 仰渡候
 右御法事ニ付被召出十五人扶持被下由被仰渡

浅井久益

一廿二日暮象戯ノ者御暇并領物如例
 一廿三日 免

一御官位 御名之字之為御祝儀明後廿五日慶斗
 目着用惣出仕之事

一右為御祝儀廿五日万石以上廿六日万石以下何
 茂宅ニ可被参夏

此為家書ノ祝儀廿八日兼何モ宅ニ張レテ
 此日お通シニテ廿六日お通シ定引廿七日
 廿八日ノ内傍ノ次第ニテお通シ
 右不込合次ニテお通シ候事

十二月廿三日

一廿五日惣出仕掃部平老中列座哉前守被申渡

御官位一從二位權大納言

御名栗家継公

右禁裏ヨリ被進之當今御幼少付仙河被

洙震筆之由

正月一日廿五ツ半時揃二日目前三日目前

一御袴出之為御祝儀來正月四日惣出仕之

一右存少祝儀正月四日万石以上同日万石以下

何為完一の終り

仙年改一祝儀三四より七の内に何為完

一廿九日惣出仕

日九日十一日十二日之内

右不込今願うはむゆい以上

十二月

一廿八日月次ノ出仕有之御三家御座間一御通英溜

詰七被通其外於席々出仕ノ面々老中被謁

一廿九日為歳暮御祝儀御三家登城其外例年出仕面

々被出

関所切手向後可為四判之由 松平主計及

松前伊豆守 大嶋肥前守 大久保泮路守

嚴有院殿御法事ニ付被召出七人扶持宛賜之

河原喜四郎 松井茂左衛門

内茂能登守跡式願ノ通嫡藤丸病氣ニ付小市郎一

被仰付 大久保山城守同主殿及

廿六日 松平志广守卒

廿八日安藤駿河守卒

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

廿九日松平又四郎卒 佐渡守子

